

●訪問を終えて私が言えるのは「すごい」の一言です。

西日本シティ銀行は、お客さまのことを本当に大切にされていることがお話の節々や、設備、考え方からよくわかって、そこに感動しました。それまで、事務ばっかりだと思っていた銀行員のイメージとは全く違って、信頼が大きく関わってくる、人と人の温かみがあふれる仕事の在り方に、とても驚いたのと同時に、とてもかっよくて尊敬するな、と強く心が動かされました。

また、銀行員の皆さまが皆、この仕事に誇りをもっている、楽しそうな嬉しそうな優しくてかっこいい顔をされていて、ああ、これはすごいな、と再度感動させられました。特に、質問をしたときは、丁寧に真摯に答えてくださって、そして雰囲気が満たされている感じも感じられて、その瞬間、将来はこんな人になりたいと思いました。私は、自分のしていることに誇りをもてる、ということは、英語の宿題の「仕事で何を大切にしたいか」の価値観のひとつで、自分にはこれもその大切な価値観なのではないかと思いました。なので、将来のことについて考えるときは、この価値観も大切にしながら考えるようにしたいと思いました。

私は、将来のことについて、あまりよくわからなかったんですが、今回の活動を通して、イメージが湧くようになりました。また、目標としたものも今回の活動で見つけることができ、想像以上の収穫で自分でも驚きです。本当に感謝しかありません。本当にありがとうございました。

●昨日、西日本鉄道株式会社の百道浜営業所に行きました。まず、到着のあいさつをして営業所を見て回りました。営業所内には、運転手さんが使う食堂や、仮眠室、筋トレをする娯楽室、月1で運転手が集まる会議室、時刻表の貼り付けを行う部屋がありました。

次に外に出て、バスの駐車場(車庫)に停まっている FUKUOKA OPEN TOP BUS に乗りました。営業所の外には、洗車場とガソリンスタンドがありました。僕はバス専用のガソリンスタンドがあることにとても驚きました。ちなみにこの駐車場はこのバスが停まっているので唯一屋根があります。

そして、会議室に行って西鉄に関する話をされました。西鉄といえばバスの多さが有名です。何故かというと、市営バスが出来なかったからだそうです。しかし、西鉄は電車やバスだけでなく、運輸業やホテル、商業施設、物流業など見えない所でも西鉄が携わっているのだとわかりました。確かに「こって西鉄なんだ…」といったところが結構あるなと思いました。その後、質問・退出のあいさつであっという間の2時間が終わりました。

この職場体験は、職場の人がやっていることを紹介するものです。今度は僕らがこの西鉄を福岡のブランドとしてみんなに紹介できるように準備したいです。

最後に、この職場体験に携わっている先生方、会社の方、特に西鉄バス百道浜営業所の皆様、貴重な時間をありがとうございました。

●私はイオンに行きました。イオンといえばイオンモールを思い浮かべがちですが、その他にもたくさんのグループがあり、例えば、マックスバリュというスーパーやミニストップというコンビニなどです。私たちは、小売業・販売業について学びました。これらはお客様のライフラインであり、地域の暮らしを守るものだと知りました。私が特に印象に残っていることは、とにかくイオンの皆さんはお客様第一に考えており、お客様の毎日を豊かにしようという熱意がすごくて素敵だなと思ったことです。その例として、熊本地震が起きた時にすぐに対策本部を立ち上げ、支援物資を送り、イオンをたったの二週間で再開させたことです。熊本で食料や日用品の不足があった方達からすると、ありがたかったらうと思います。他にも東日本大震災などの災害も支援しているそうです。また、トップバリュという独自のブランドの商品といつも食べている市販の商品を食べ比べたことは楽しかったです。どちらも美味しくて味の違いが正直分かりませんでした。それなのに、トップバリュの方が市販のものより、50円以上安かったのが驚いたし、安いのもお客様を思っていることなのかなと思ひ、素敵だなと思いました。たくさん試食できたり、お店の方も優しくてとても良い体験になりました。この職場体験を通して考えたことは、お客様や地域のことを一番考えることがお客様のためになるし、信頼される企業になると思うので、大事にするべきだと思いました。仕事は必ずと言っていいほど人と関わる仕事だと私は考えています。これから私がどんな職業に就いても、お客様や地域を一番考えたいと思いました。イオンは募金活動や、幸せの黄色いレシートというものを使って企業や被災地を支援していると知ってイオンはショッピングモールだけでなくたくさんの活動をしていると知りました。素敵なお社だと思ったのでこれからもイオンに行って募金もしてみようと思いました。仕事は苦しいこともあるだろうけど、楽しそうだなというイメージを持ちました。普段はできない大変貴重な時間になりました。

●職場訪問を通して、貴重な話をたくさん聞くことができました。例えば、海の環境問題について、海がきれいになっているから栄養がなくなって、魚がそだたないということは、訪問していなかったら知ることはできなかったのも、行ってよかったなど思いました。

また、「アニマルウェルフェア」という言葉も新しく学ぶことができました。とりが快適に過ごすことができるような取り組みもしていてすごいなと思いました。

さらに、骨や頭までスープに使うって無駄にしない、ゴミをださない、環境に配慮した取り組みも素晴らしいと感じました。

そして、会長の「好きなことをしている」という言葉が印象に残りました。私も将来は、自分がしたい仕事をして、やりがいを持って働きたいです。

●私達は、福岡市動物園に行きました。

普段は入れない治療室や解剖室にも入らせてもらえて、とても勉強になりました。ヘビのレントゲン写真を初めて見ました。虎にごはんをあげる体験も、させてもらいました。手を出して待っていて、とても可愛かったです。また、私は人間のせいで怪我をした野生動物の保護を動物園で保護していることを初めて知りました。

羽が骨折してしまった鳥の治療で、人間が骨折したときに使うワイヤーでは、重すぎて飛べなくなるので竹ひごを使うと言っていたので、すごいと思いました。

とても楽しくて、勉強になる貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

●福岡市博物館を見学して、興味深い話をたくさん聞くことができました。事前にインターネットを使い下調べをしましたが、その時受けた印象とは異なることが多く、毎秒目に映るもの、耳に入るものが新鮮でした。

一番初めに、常設展示で学芸員さんの案内をお受けしました。そこでは、福岡の歴史を展示品とともに解説していただきました。福岡市博物館の目玉の展示品、金印についてまつわることを聞いたり、ちょうど学習していた鎌倉時代の元寇について詳しく解説していただいたり、学校で学んだ以上に私たちには知らないことがこんなにもあるのか!と、歴史の奥深さを実感しました。

私は学芸員さんの展示品の解説を伺うことは初めてでしたので、初めて聞く話にもう充分満足していたものの、その後さらにバックヤードまで案内していただきました。バックヤードには一般に展示されている以上の文化財が収蔵されており、それら文化財の保護の工夫も知ることができました。必ず片方は閉めておく二重扉の決まりや技術者を雇った温度管理など、文化財保護の丁寧ぶり・徹底ぶりに感服しました。

最後におこなった質問の場では、聞けばすらすらと出てくる学芸員さんの回答から働く人の知識量の多さ、学芸員さんの話の上手さを感じました。事前に下調べをしたものから質問を考えていたのですが、予想していた回答とは違うこともあり、実際に会ってお話を拝聴することができ良かったと思いました。その際、今回案内していただいた学芸員さんとは別の学芸員さんにお話を伺う機会が少しあったのですが、そのお話も大変面白く、やはりこの職場訪問の機会に博物館に実際に伺うことができ良かったと思いました。

今回福岡市博物館を訪れて、学芸員さんの知識量に圧倒されるとともに、尊敬の念を抱きました。また、歴史には自分が知っている以外の説があるなど、奥深さを感じました。自分の将来のことはまだ分かりませんが、今回学んだことを少なくともこれからの学習、独習に活かしていこうと思います。

●まず、本当に楽しかった!!□ここまで良くしてくれると思っていなかったのも、驚いたけど、それと同時にありがたいなあと思いました。私はカメラマンさんと話したのが印象に残りました。質問をした時、聞いた事以上の事を教えて下さった。また、アナウンサーの人は本当にすごんだよ、と誇らしげに話してくれたのが特に心に残りました。素直に尊敬していて、そんな関係がいいなと、思いました。みんな忙しいはずなのに、温かく迎えてくださり、また、色々な人が話しかけて下さったのが本当に嬉しかったです。龍山さんの言葉にはどれも重みがありました。どんな質問にも丁寧に答えて下さったのが印象的でした。「自分たちの身は自分で正しておく」という言葉の裏にはきっと、自分の仕事に対するプライドだったり誇りだったりというのがあるのではないかと思います。この職場体験を計画して下さい、本当にありがとうございました!!

●私は、職場訪問に行く前は、正直、働くことに対して、「大変そう」などのマイナスなイメージを持っていました。でも、西部ガスの方のお話を聞いて、働いて世の中で価値を届けることで、自分の人生も充実させることができると知りました。

また、ガスは私たちの生活に欠かせないものだというのを改めて理解することができました。熊本地震の復旧の様子のビデオでは、ガスの大切さに加えて、西部ガスの方々のお客さんへの思いを知り、感動しました。いつも私たちにガスを送り続け、私たちの困りごとを解決しようとしてくださる西部ガスの方々に感謝します。

今回の経験で知ったことを、自分の将来について考えるときの材料にしようと思います。そして、自分の人生を大切に生きたいです！

●このサマーチャレンジではとても充実した時間を過ごす事ができ、さらに「大人のマナー」も少しですが、知る事ができました。そこで感じた事学んだ事を時系列順に綴ってみようと思います。

はかた伝統工芸館は想像していたよりもずっと小さく、そこに貴重な彼ら伝統工芸品達が密着してくっつきあっている、なんだか自分が秘密の部屋のようにいるように感じました。

お話は館長さんが自ら私達にしてくださり、はかた伝統工芸館の成り立ちや展示されている伝統工芸品の歴史、伝統工芸品がどうやって作品となっていかなどを教えてくださいました。聞いていると初めて聞く話も多々あり、とても勉強になったのを覚えています。そのあとは見学をし、展示品らを自由にみて回らせていただきました。とても素敵で、私ある博多人形、最初は知らなかったのですが「福の神」という名前の博多人形がとっても好きになりました。何故なら「福の神」は精巧な造りからも生気が感じられ、さらにニコニコと満面の笑みで笑っていたからです。館長さんもまたはかた伝統工芸館の招き猫のような「福の神」が好きだとおっしゃっていました。

仕事体験ではお客さんが買われた商品を入れる紙袋にはかた伝統工芸館のいくつか種類がある判子(スタンプのようなもの)を押すという仕事を半時間ほどさせていただきました。簡単で単調に見えたこの仕事体験、一発勝負の押印が擦れないよう判子のインクのつき具合を確かめ、位置が寸分違わないように、他のインクがつかないように、表裏上下左右間違えないように、紙袋が折れてしまわないようになどなど注意を向けなければならない箇所が思っていたよりずっと多く、気が抜けない作業です。これだけで言うてしまうのは少しよくないのかもしれませんが「働く」って大変で、また同時にすごい事だと思いました。

このような文面からも分かる通り私ははかた伝統工芸館でとても楽しみ、また学ぶ事ができました。伝統工芸品の知識を活かして生活をより良くする、そういった事は少しばかり難しいけれど、はかた伝統工芸館で沢山学んだようにこれからもできる限りのものに目を向け知識を吸収していきたいと思っています。